# Systemd

#### [Linux]

- https://fedoraproject.org/wiki/Systemd
- http://d.hatena.ne.jp/enakai00/20130914/1379146157
- http://alpha.mixi.co.jp/2013/12063/

Linux の起動処理は、これまで init/upstart と呼ばれる仕組みで行われていました。Red Hat Enterprise Linux 7 (RHEL7) では、これが、systemd と呼ばれるまったく新しい仕組みに置き換わります。

## Unit

- ・systemd では、「Unit」という単位で処理を管理
- ・rc.sysinit やサービス起動スクリプトが実施していた処理の内容は、すべて、Unit として定義
- ・Unit は、「target」「mount」「ser<u>vi</u>ce」「de<u>vi</u>ce」など、役割によってタイプがわかれている ・設定ファイル名の末尾「.target」「.ser<u>vi</u>ce」で判別ができます
- ・Unit の定義ファイルは /usr/lib/systemd/system/ ディレクトリ配下にあります。

#### Unit のタイプ

タイプ	説明
mount	指定のファイルシステムをマウントする
automount	オートマウント処理を実施する(automountd の 代替的な機能)
ser <u>vi</u> ce	指定のバイナリを実行する(主にはデーモンの 起動に使用する)
socket	systemd が Socket を Listen して、接続があると プロセスに受け渡す(xinetd の代替的な機能)
path	指定のファイルが作成されると、指定された サービスを起動する
de <u>vi</u> ce	udev から通知されたデバイスを表す
target	複数の Unit をまとめるために使用する

## systemctl コマンドによる Unit の確認

・「systemctl list-units」コマンドを利用すると、現在の設定で稼働している Unit を確認することができます

## 稼働サービスの一覧

# systemctl list-units --type=service

#### on/off の設定

・ chkconfig による on/off に対応

# systemctl enable docker.service

off

# systemctl disable docker.service

### ターゲットの設定

・/usr/lib/systemd/system/ 配下の設定ファイルを確認

、runlevel 5 に相当する「graphical.target」に対しては、「multi-user.target」が前提として定義されていますので、multi-user.target で有効化された ser<u>vi</u>ce は、自動的に graphical.target でも有効化されます

例

- ・runlevel 3 と 5 で有効化したい WantedBy に multi-user.target を指定
- ・runlevel 5 だけで有効化したい WantedBy に graphical.target を指定

```
# cat /usr/lib/systemd/system/docker.service
[Unit]
Description=Docker Application Container Engine
Documentation=http://docs.docker.io
After=network.target
Requires=docker.socket

[Service]
Type=notify
EnvironmentFile=-/etc/sysconfig/docker
ExecStart=/usr/bin/docker -d --selinux-enabled -H fd://
Restart=on-failure
LimitNOFILE=1048576
LimitNPROC=1048576
[Install]
WantedBy=multi-user.target
```

#### サービスの確認

## 再起動

# systemctl restart docker.service

#### 設定の再読み込み

```
# systemctl reload [サービス]
```

該当の service が reload オプションに対応している必要あり

例

・start/reload の際に実行されるコマンドが指定されています (「ExecStart=」 および「ExecReload=」オプション)

[Service]
EnvironmentFile=/etc/sysconfig/sshd
ExecStartPre=/usr/sbin/sshd-keygen
ExecStart=/usr/sbin/sshd -D \$OPTIONS
ExecReload=/bin/kill -HUP \$MAINPID

## chkconfig/service コマンドとの共存

/etc/init.d/ 以下に旧来のサービススクリプトがある場合、そちらを <u>chkconfig</u>/ser<u>vi</u>ce コマンドで操作することも可能です。<u>CentOS</u>7 では、次のサービスは systemd に移行せずに残っています。

# chkconfig --list

注記: この出力は SysV サービスのみであり、ネイティブな systemd のサービスは含まれていません。 systemd services. SysV 設定のデータはネイティブな systemd の設定によって上書きされます。 systemd サービスを一覧表示するには 'systemctl list-unit-files' を使用してください。 特定のターゲットにおいて有効化されているサービスを確認するには、 'systemctl list-dependencies [target]'。

```
5:on
iprinit
                                 2:on
                                                 4:on
                                                         5:on
                0:off
                        1:off
                                         3:on
                                                                 6:off
iprupdate
                0:off
                        1:off
                                2:on
                                         3:on
                                                 4:on
                                                         5:on
                                                                 6:off
netconsole
                0:off
                        1:off
                                 2:off
                                         3:off
                                                 4:off
                                                         5:off
                                                                 6:off
                0:off
                        1:off
                                2:on
                                         3:on
                                                 4:on
                                                         5:on
                                                                 6:off
network
```

/etc/init.d/以下にスクリプトがないサービスに対して、chkconfig/service コマンドを実行した場合は、自動的に対応する systemctl コマンドが発行されます。

### 各フェーズにおける起動時間

```
# systemd-analyze
Startup finished in 390ms (kernel) + 7.498s (initrd) + 24.687s (userspace) = 32.576s
```

### 仮想環境種類の判別

# systemd-detect-virt
microsoft